

当麻町第3次子どもの読書活動推進計画

(令和5年度～令和9年度)

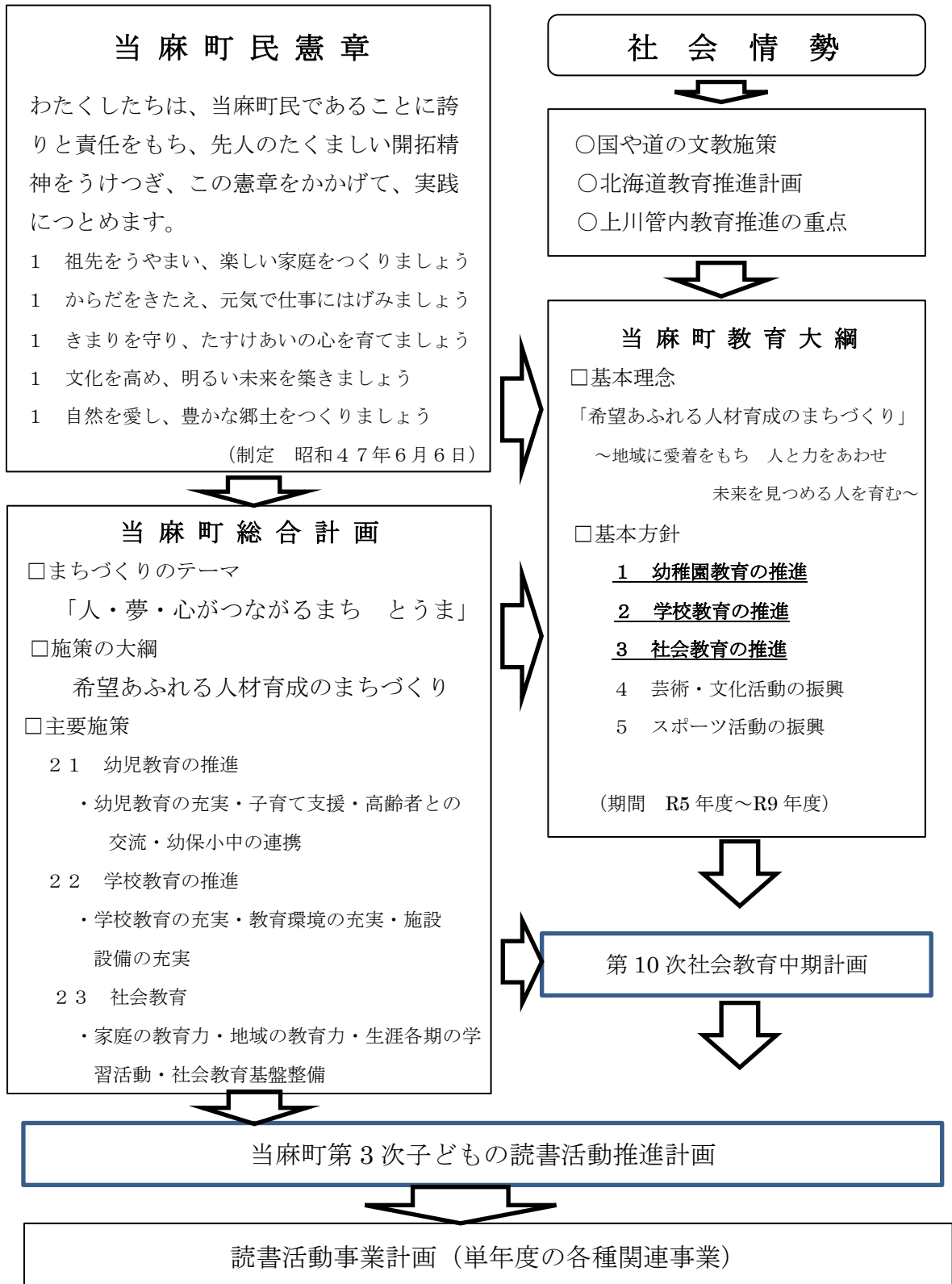


「PTAによる読み聞かせ」

当麻町教育委員会

当麻町第3次子どもの読書活動推進計画の位置付け

～ 総合計画・教育大綱との関連～



目 次

当麻町第3次子どもの読書活動推進計画の位置付け

第1章 策定にあたって	
1 国や北海道の動向	1
2 当麻町子どもの読書活動の現状	1
3 策定の趣旨	2
4 計画の期間及び推進状況の把握	2
第2章 基本理念と他計画との関係	3
第3章 基本目標	4
第4章 基本方針と具体的手だて	
基本目標1 「自ら本に親しみ、本から学ぶ読書活動の推進」	
基本方針1—①	4
基本方針1—②	5
基本方針1—③	5
基本目標2 「子どもの読書活動を支える発達段階に応じた読書環境の整備」	
基本方針1—①	5
基本方針1—②	6
第5章 年度計画及び評価	
1 本計画における評価	7
2 年度ごとの計画と評価	8
《資料》	
1 「第2次子どもの読書活動推進計画」での目標に対する評価	10
2 子どもの読書活動に関するアンケート結果について	12
当麻町子どもの読書活動推進計画策定委員	21

第1章 策定にあたって

1 国や北海道の動向

近年、ネット環境の充実や、各種端末の加速度的な発達により、生活の大きな変化をもたらしてきました。国は平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行し、子どもの読書活動の充実を図ってきました。また、平成29年に改訂された学習指導要領でも読書活動の重要性や、時代に応じた活動内容が示されてきました。さらに、令和元年に「GIGAスクール構想の実現パッケージ」が公表され、ICTの活用が加速し、「一人一台端末」が現実のものとなりました。その中で「読書習慣の形成に向けて発達段階ごとの効果的な取組を推進」「友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実」「情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」等が進められてきました。

北海道では、平成15年に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定し、現在「第5次」の策定へと進んでいます。第4次計画の進捗状況として「図書整備状況の向上」「学校司書配置の推進」「学校における一斉読書の取組みの完全実施」等が成果としてあげられています。半面、「家庭での読書状況の向上」や「読書が好きな児童生徒の割合の向上」等が課題としてあげられています。

当麻町の第3次子どもの読書活動推進計画においては、国と道のこれらの動向を踏まえて、当麻町の現状を把握し、計画の策定を進めていきます。

2 当麻町子どもの読書活動の現状

①第2次子どもの読書活動推進計画の評価結果から

第2次計画で示した「目標指標に対し、その到達度等」を評価しました。

- 中学生での「本が好きな生徒」「家庭での読書10分以上」の割合は、5年前より大きく向上し、全国平均を超える割合となり、目標に到達した。
- 小学生での「本が好きな児童」の割合は、5年前より大きく向上し全国平均を超えたが、「家庭での読書10分以上」の割合は5年前よりやや低下し全国平均にも届かず、目標に到達しなかった。
- 各学校での「一斉読書の取組み」「図書館便り等の啓発活動」、図書館での「啓発活動や各種事業」や乳幼児対象の「読書情報提供」等は目標に到達した。
- 学校図書館等の整備状況は目標に到達した。

②幼稚園・保育園保護者、小学生・中学生へのアンケート結果から

令和4年7月に実施したアンケート結果から以下の点を、これまでの5年間の成果(○)と今後の5年間の大きな課題(●)と考えました。

2つの評価から、「読書環境や働きかけは計画を達成している」「小学生は本が好きだが、読書量は少なく何らかの工夫が必要である」「中学生の読書量は向上しているので質的向上を考える」「子どもの読書活動の基礎となる乳幼児時期の保護者の読書環境への支援の充実が必要である」という方向性が見えてきました。

- 本が好きな子どもが多い。(小学生 90%～中学生 85%)
 - 誕生日の本は好評である (各 90%以上好意的評価)
 - 小学生の不読の傾向 (10%弱)、中学生になり「本に興味がない」と回答した生徒が増加の傾向 (小学生 3%→中学生 9%) がある。
 - 中学生になると読書の傾向が変化する。(物語・小説・ファンタジーを読んでいる割合が増え、ドキュメント・実用書・科学系を読んでいる割合が下がる)
- また、コロナの影響もあり、一概に課題とも言えないが
- △図書館からの貸し出し冊数等の図書利用率が下がっている。
- △幼児の読書を進めるため、その保護者への働きかけや読書環境を整える活動の継続が必要である。

3 当麻町第3次子どもの読書活動推進計画策定の趣旨

読書活動は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの（子どもの読書活動の推進に関する法律）」として、社会全体でその推進を図っていくものです。

国が平成13年に制定した「子どもの読書活動の推進に関する法律」と、北海道が平成15年に策定した「北海道子どもの読書活動推進計画」に基づき、当麻町でも平成26年に「当麻町第1次子どもの読書推進計画」を策定し、子どもの読書活動の充実を目指してきました。令和5年からは「第3次計画」を策定し、令和9年までの5年間の取組を進めてきました。

4 当麻町第3次子どもの読書活動推進計画の位置付け及び期間

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の第9条の2に基づき制定するものであり、「北海道子どもの読書活動推進計画」を基本とするとともに、本町のまちづくりの指針である「第6次当麻町総合計画（令和5年度～令和9年度）」、「当麻町教育大綱（令和5年度～令和9年度）」及び「当麻町第10次社会教育中期計画（令和5年度～令和9年度）」「第3次学校教育基本計画（令和5年度～令和9年度）」等との整合性を図りながら、子どもの読書活動の推進に関する考え方やその方策を示すものとして作成します。

また、この計画は、令和5年度からの5カ年とします。なお、この計画の推進状況については、教育委員会議及び社会教育委員会議に報告し、その意見等を踏まえて次年度以降の効果的・計画的な推進に努めます。この計画の対象年齢は0歳～18歳の当麻町内の子どもとします。各期の特徴をしっかりと踏まえるとともに、働きかけの主体や手立てを明らかにして、取組の充実を図ります。

第2章 基本理念と他計画との関係

当麻町の「子どもの読書活動推進計画」においては、これまでと同様の基本理念をあげて進めていきます。

当麻町のすべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校の連携を深め、積極的に働きかけと環境整備を進めます。

当麻町が目指す学校教育の基本理念として「ふるさとに誇りをもち、仲間とともに未来を切り拓く子どもの育成」をあげています。今、学校では、GIGA スクール構想が進み、児童生徒一人一人に情報端末が与えられ、それを使った教育活動が充実されています。「調べる」と言えば、これまでは図書室で図鑑を手にする活動が多かったものが、一人一人がネットから情報を手に入れる活動に替わってきています。しかし、その中でも「文字からイメージする力の向上」「本を手にとることでの興味・関心の新たな広がり」「多様なワードから情報を収集するスキルの向上」等は大切です。そこで、今後5年間の読書活動を通して高めたい力を以下のように設定します。

ネット上の直接的な情報があふれる時代においても、文字を読み自らイメージする力や、ねらいをもって文字を通して情報を得たりそこから考えたりする力を育てる

また、第10次社会教育中期計画では、図書館活動の基本方針と具体的方策として以下のものをあげています。

「子どもの読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動充実と共に、ネット時代に対応した読書環境整備と働きかけの充実に努めていきます。

- ①幼児から高齢者までの全ての世代が活用しやすい図書館、ゆったりと読書に親しめる空間となる図書館のあり方を検討し、利用者の拡大に努めます。
- ②「第3次子どもの読書推進計画」に基づく、学校司書の配置や町立図書館と学校図書室の連携等の環境整備に努めます。
- ③家庭で読書が話題となるような「誕生日の本」の有効な活用、学校教育と密接につながった「読書コンクール」等による子どもの読書活動の推進と充実を図ります。
- ④図書館フェスティバルや読み聞かせ会のより一層の充実とともに、その活動がより多くの人に伝わったり参加しようとしたりする情報発信を工夫します。
- ⑤学校・PTA等との連携を図った読書活動充実の取組（例「読書の日設定」「読み聞かせ学習会」等）を充実させ、子どもや家庭の読書の充実に努めます。

子どもの読書活動推進計画では、第10次社会教育中期計画の具体策②③⑤との関連を特に意識し、計画を推進していきます。

第3章 基本目標

本計画は、大きく「読書環境の整備」というハード面と「読書活動の推進」というソフト面の両面から考えていきます。

基本目標 1 自ら本に親しみ、本から学ぶ読書活動の推進

基本目標 2 子どもの読書活動を支える読書環境の整備

基本目標1の「自ら本に親しみ、本から学ぶ」とは、子どもが主体的に読書活動を行う姿を現しています。子どもの発達段階や読書活動の深化状況を考えると、まず「本に親しむ」ことから、本が好きになり日常的に「本を読もう」という意識の高まりが大切です。その後、小学校高学年から中学生にかけては、自分なりの生き方を考える中で「本から学ぶ」という姿勢を育てていきます。そのためには、家庭・地域・学校それぞれが働きかけを進めていくことが重要です。また、そのためには、その活動を支える読書環境の整備も欠かせません。それが基本理念の「連携を進め、環境整備を図る」こととなり、さらに学校教育基本計画の基本理念である「未来を切り拓く子ども」へつながっていきます。

第4章 基本方針と具体的手だて

基本目標 1 自ら本に親しみ、本から学ぶ読書活動の推進

子どもが、自主的に読書活動を推進する為には、周りの大人からの働きかけが重要です。そのために、家庭・地域・学校のそれぞれの役割を明確にしながらも、連携を深め、子どもの発達段階に応じた働きかけを進めていきます。

基本方針 1—① “本を身近に感じる“家庭における読書活動の推進

- “親も一緒に読書 スマホを手放す日”をつくる。
- 家族で本を選んだり、本について語り合ったりする機会をつくる。
- 保護者による絵本や物語の読み聞かせを行う。
- 家族で図書館に行ったり、読み聞かせに参加したりする機会を増やす。
- 本を見てやってみる、やったこと行った場所を本で調べる等体験と読書を関係づける。

これら家庭での読書活動の推進については、様々な機会を通しての家庭への啓発、保護者を対象にした読書に関する学習機会の設定等を行います。

基本方針 1-② “本に触れる機会を増やす”地域における読書活動の推進

<図書館>

- 各種事業の改善と実践を進める。
- 学校の教育課程を見越した学校図書館・学級文庫との連携を進める。
- 利用者からの相談や興味を高める本の紹介等ニーズに応じた読書支援を行う。
- 読み聞かせサークル等との連携に努める。

<地域の組織や当麻町>

- 読み聞かせボランティア活動の充実を図る。
- 読み聞かせの動画作成の試行と公開方法の検討し、実施していく。
- 読み聞かせの研修会等を実施する。
- 学校の教育活動と連携し、読書に親しめる読書コンクールの企画を行う。

これら地域の活動の推進については「第 10 次社会教育中期計画」との関連を図り、子ども期以降も読書活動が継続するように努めます。

基本方針 1-③ “本に触れ、本から学ぶ”学校等における読書活動の推進

- 読み聞かせや本の紹介等の本に親しむ活動（幼保小）を推進する。
- 一斉読書の機会を充実するとともに、教育課程上の読書に関する活動の充実を図る。
- 一人一台端末と読書活動のバランスを意識した教育課程の作成を進める。
- 季節や教育活動と読書を関連付けた指導を推進する。
- 本から生き方を学ぶ機会の設定を進める。

学校での働きかけは、一人一台端末とのバランス・学習指導要領等を意識して、精選と質的改善を進めていく。

基本目標 2 子どもの読書活動を支える発達段階に応じた読書環境の整備

基本方針 2-① “ニーズに応じた”図書館における読書環境の整備

- 子ども連れの保護者を優先する「にぎやかでよい図書館の日」（週 1 回平日午前等）を設定する。
- 本ぞろえの工夫(どんな本（質）をどれだけそろえる（量）か)を継続する。
- キッズスペースの設置の検討や本の紹介方法を工夫する。
- 学校の教育活動を見越した読書活動の支援を進める。
- 幼児の図書貸し出し冊数の改善を行う。

図書館は町の読書活動の中心となる施設であるとの認識のもと様々な世代が使いやすい環境を整える中で、子どもにとっては読書の入り口となるスペース、より読書が広がるスペースとしての整備を進めていく。

基本方針 2-② “ゆっくり本に親しめる”学校等における読書環境の整備

- 学校司書を継続配置し、司書教諭や図書担当との連携を図って、業務を推進していく。
- 好ましい環境やリラックスできるスペースとなるように工夫する。
- 発達段階を意識した本ぞろえと働きかけの継続を行う。
- 図書館との定期的な本の入替を行う。

子どもにとって、落ち着ける場所・心の居場所となれる場所、あるいは新しいものに出逢える場所といった明確な意図をもって整備を進めていく。

対象となる各期の特徴は（「北海道子どもの読書活動推進計画」より）

<乳幼児期（0～6歳）「本に出会う」>

3歳までには、徐々に自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになるとともに、文字の存在を意識し絵本に興味を示すようになります。この時期は絵本や物語などに親しみ、保護者等の周りにいる大人からの語りかけや言葉のやり取りを通じて、気持ちを通わせることが大切です。

4歳以上になると、日常生活に必要な言葉が分かるようになり、かな文字も全部読めるようになってきます。この時期は、絵本や物語を読んでもらうことにより、その内容を自分の経験と結び付けて、理想を巡らせるなどして、読書の楽しみを十分に味わうことが大切です。

<小学生期（6歳～12歳）「本に親しむ」>

低学年は、本を読む習慣がつき始める時期であり、文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってきます。この時期は、読み聞かせなどにより、いろいろな本に親しんだり読書を楽しんだりすることが大切です。

中学年は、多くの本を読むことができるようになるとともに、本を最後まで読み通すことができるようになってきます。この時期は、幅広いジャンルの本に親しみ読書を通して必要な知識や情報を得るようにすることが大切です。

高学年は、目的に合った本を読むようになり、内容を評価することができるようになってきます。この時期は、日常的に読書に親しみ、読書を通して自分の考えを広げるようにすることが大切です。

<中学生期（12歳～15歳）「本から学ぶ」>

中学生期は、多くの本の中から自分に合った本を選択することができるようになってきます。また、共感・感動する本に出会うと、何度も読むようになります。この時期は、本や文章には様々な立場や考え方がかかれていることを知るとともに、読書が自分の生き方や社会との関わり方を支えてくれることを実感することが大切です。

<高校生期（15歳～18歳）「本と生きる」>

高校生期は、読書の目的や資料の種類に応じて、適切な読書技術によって読むことができるようになってきます。この時期は、自分の読書生活を振り返り、読書の幅を広げるとともに、読書習慣を身に付け、生涯にわたって読書に親しむようにすることが大切です。

第5章 年度計画及び評価

1 本計画に対する評価

- ①最終年度（令和9年度）に、小学学生・中学生・幼稚園保育園の保護者に以下のような視点からアンケートを実施し、実態を評価します。また、本計画で重要な項目や新たな具体的手だて（◎）については、目標を設定し到達度を評価していきます。

◎本を読むのは好きですか。

R4 アンケートで肯定的評価 小 90.5 中 83.1 → 目標 小中ともに 90

◎読書の量と傾向（何冊くらい、どんな本を読むか）

R4 アンケートで0冊との回答 小 9.5 中 11.5 →目標 小中ともに 0

R4 アンケートで中学生の読書傾向の回答 ドキュメント 16.0 実用書 9.9

→ 目標 それらの割合をあげる（読書傾向を変える）

中学生に対するアンケート新項目として「本を読んで人の生き方について考えたり、自分の生き方を考えたりしたことがあるか」を問う。

○図書室や図書コーナーの活用状況

○読み聞かせの経験の有無とその好き嫌い

◎町立図書館の活用状況

幼稚園保育園保護者に対するアンケート新項目として「子ども連れで活用しやすくなったか」を問う（目標値は今後設定）

○図書館に関する要望

◎誕生日の本の効果

「保護者が選ぶ誕生日の本」の実施学年保護者に対し、最終年度アンケートを実施し、「誕生日の本が家庭で話題になったか」を問う

→目標 50（半数の家庭が話題にしてくれる）

等

- ②全国学力・学習状況調査の質問紙のデータ（令和7～9年度の平均値）から実態を評価します。

・読書は好きか

・学校の授業以外での1日当たりの読書時間は

・自分の思いや考えや思いをもとに、作品や作文など新しいものをつくりだす活動を行っていたか。（読書コンクールとの関連で、実施していたの回答を求めていく）

- ③図書館の整備状況や各団体の活動状況から実態を評価します。

・幼児・児童一人当たりの年間貸し出し数

R3 小学生は 21.6 冊→目標 22 冊

・図書の整備状況

・子どもの読書活動に対する普及・啓発活動

2 年度ごとの計画と評価

①年度ごとの計画

・教育委員会で取組状況から次年度の重点を決め、2月の図書館スタッフ会議・2月の校長会議等を通して周知を図り、取組を進めていきます。

②年度ごとの評価

・取組状況やその成果について、図書館スタッフ会議で年度の重点の状況を把握したり、各学校の図書担当者へのアンケート等を実施したりして、年度ごとに評価していきます。

年度ごとの重点と評価

基本目標1 自ら本に親しみ、本から学ぶ読書活動の推進

基本方針1-①	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価
“本を身近に感じる”家庭における読書活動の推進								
“親も一緒に読書の日”の設定								
家庭で本について語り合う機会の働きかけ								
保護者による読み聞かせの実施								
家族で図書館に行く、読み聞かせを聞く機会の充実								
体験と読書の関係づけを働きかける								

基本方針1-②	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価
“本に触れる機会を増やす”地域における読書活動の推進								
図書館の各種事業の改善と実践								
学校の教育課程に基づいた図書館と学校の連携の推進								
ニーズに応じた図書館の読書支援								
読み聞かせサークル等と図書館の連携推進								
読み聞かせボランティア活動の充実								
読み聞かせ動画等の試行								
読み聞かせの研修会の実施								
読書コンクールの企画と実践								

基本方針1-③	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価
“本に触れ、本から学ぶ”学校等における読書活動の推進								
本に親しむ活動（幼保小）の推進								
教育課程上の読書活動の充実								
GIGAスクールとのバランスを意識した教育課程の作成								
季節や教育活動と関連付けた指導の推進								
本から生き方を学ぶ機会の設定								

基本目標2 子どもの読書活動を支える発達段階に応じた読書環境の整備

基本方針2-①	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価
“ニーズに応じた”図書館における読書環境の整備								
親子で利用しやすい日の設定								
本ぞろえの工夫								
キッズスペースの工夫の検討や本の紹介の工夫								
学校の教育活動を見越した読書活動の支援								
幼児の図書貸し出しのあり方の改善								

基本方針2-②	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価
“ゆっくり本に親しめる”学校等における読書環境の整備								
学校司書の配置と図書担当との連携と業務の推進								
好ましい環境への工夫								
発達段階を意識した本ぞろえと働きかけ								
定期的な本の更新								

「第2次子どもの読書活動推進計画」での目標に対する評価

推進方策

Iの1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

- ①家庭における子どもの読書活動を促進します。
- ②町立図書館における子どもの読書活動を促進します。
- ③関係機関や団体との連携を深め、子どもの読書活動を促進します。

推進方策

Iの2 学校等における子どもの読書活動の推進

- ①一人ひとりの子どもに望ましい読書習慣の形成を図ります。
- ②組織的・計画的・継続的な読書活動の推進に努めます。
- ③幼稚園や保育園における読書活動を促進します。
- ④学校図書館（室）の利活用の促進に努めます。

【目標指標】基本目標 I 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動の推進				
指標	指標の概要	基準年度の状況 (H29)	目標とする値 (R4)	最終年度の達成状況 (R4)
家庭での読書の状況	全国学力・学習状況調査において、「家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の設問に対し、「10分以上」と回答した小学校児童の割合	57.7% 全国 63.3%	75.0%	51.3% 全国 59.6%
	全国学力・学習状況調査において、「家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の設問に対し、「10分以上」と回答した中学校生徒の割合	36.7% 全国 51.4%	60.0%	59.0% 全国 48.6%
読書が好きな児童・生徒の割合	全国学力・学習状況調査において、「読書は好きですか」の設問に対して、「当てはまる」又は「どちらか」と当てはまる」と回答した小学校児童の割合	64.4% 全国 74.3%	80.0%	76.9% 全国 73.1%
	全国学力・学習状況調査において、「読書は好きですか」の設問に対して、「当てはまる」又は「どちらか」と当てはまる」と回答した中学校生徒の割合	60.0% 全国 69.9%	80.0%	74.4% 全国 68.2%
学校における一斉読書の取組状況	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていると回答した小中学校数	3校	3校	3校

推進方策

IIの1 当麻町における読書環境の整備・充実

- ①「当麻町第2次子どもの読書活動推進計画」を策定し、計画的な施策の推進・点検・評価・改善に努めます。
- ②学校図書館（室）の図書館機能の充実に努めます。
- ③関係機関・団体との連携を深め、読書活動の指導者の発掘と養成に努めます。

推進方策

IIの2 町立図書館の整備・充実

- ①子どもの読書活動のよりよい環境づくりに向けて、一層の整備・充実に努めます。
- ②学校図書館（室）との連携を深めます。
- ③読み聞かせサークル等の関係団体との連携に努めます。

推進方策

IIの3 学校図書館（室）の整備・充実

- ①図書担当教諭と学校司書が連携・協力・協働し、子どもが利用しやすい図書館（室）運営に努めます。
- ②図書資料・設備の整備・充実を図ります。
- ③読書センターや学習情報センターとしての機能充実を図ります。
- ④町立図書館との連携を促進します。

【目標指標】基本目標Ⅱ 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備				
指標	指標の概要	基準年度の状況(H29)	目標とする値(R4)	最終年度の達成状況(R4)
幼児・児童一人当たりの年間児童書貸出冊数	町立図書館において、当麻町の幼児・児童1人が、1年間に借りた児童書の冊数	18.7 (冊) ※H28年度	20冊以上	21.6冊 (R3小学生)
学校図書館図書標準の達成状況	当麻小学校 ※図書標準の定める冊数 7,960冊	74.0 (%)	80.0 (%)	87.3%
	宇園別小学校 ※図書標準の定める冊数 3,520冊	101.0 (%)	100.0 (%)	132.5%
	当麻中学校 ※図書標準の定める冊数 7,360冊	66.4 (%)	80.0 (%)	102.0%

* 宇園別小学校については、学級減のため基準数が下がっています。

推進方策

Ⅲの1 行政や町立図書館における子どもの読書活動の普及・啓発

- ①地域住民の多様な意見の収集と反映に努めます。
- ②子どもの読書活動に関する地域住民の理解の促進に努めます。
- ③関係機関・団体との連携による普及・啓発活動の促進に努めます。

推進方策

Ⅲの2 学校等における読書活動の普及・啓発

- ①子どもの実態に応じた望ましい読書習慣の形成を図ります。
- ②家庭・地域との連携による読書活動を促進します。
- ③幼稚園や保育園における読書活動を促進します。

【目標指標】基本目標Ⅲ 子どもの読書活動を推進するための普及・啓発活動の促進				
指標	指標の概要	基準年度の状況(H29)	目標とする値(R4)	最終年度の達成状況(R4)
国や北海道の読書関係事業に併せて事業を実施する。	「子ども読書の日(4月23日)」や「こどもの読書週間(4月23日～5月12日)」に子どもの読書活動に関する事業を実施	実施 子ども読み聞かせ会	継続実施 内容の充実	継続実施と期間内の貸出し枠拡大
読書活動に関する広報活動を実施する。	学校図書館便りの発行や図書館情報の発信など、読書活動や学校図書室に関する広報活動を実施している学校	3(校)	3(校)	3校
	町立図書館等における子どもの読書活動に関する普及・啓発活動の実施	4(回)	4(回)	4回
	乳幼児健診時における子どもの読書活動に関する普及・啓発活動及び読書情報提供の実施	17(回)	継続実施 内容の充実	継続実施

子どもの読書活動に関するアンケート結果について

令和4年9月

アンケートについて

「幼稚園・保育園保護者アンケート」「小中学生アンケート」は7月中に、「幼稚園・保育園保護者」「小中学生」に対して実施し、小中学生92%、幼稚園・保育園保護者79%の回答を得ました。

アンケート結果を受けて

- 本が好きな子が多い（中学生85～小学生90%）
- 誕生日の本は好評である（幼児保護者・小中学生90%以上）
- 小学生の不読の傾向（10%弱）、中学生になり「本に興味がない」と回答した生徒が増加の傾向（小3%→中9%）がある。
- 中学生になると読書の傾向が変化する。（物語・小説・ファンタジーが小57%→中72%、ドキュメントが同28%→16%・実用書が同31%→10%・科学系が同36%→16%）
- △図書館からの貸し出し冊数等図書利用がかなり下がっている（コロナの影響もあると思われるが 小学生一人当たり年間貸し出しが約30冊（R元）→約20冊（R2））。
- △幼児の読書を進めるためには、その保護者への働きかけや読書環境を整える活動を継続していく必要があります（幼稚園・保育園の記述欄にも「子ども連れでも利用しやすい環境が欲しい」「図書館のスペースが狭い」等の記述あり）。

第3次計画にむけて

現在、ICT活用が進み、学校では一人一台端末の活用が急務の中、第3次計画としての今後5年間の子どもが読書活動を通して高める力を以下のように設定して、具体策を検討します。

「ネット上の直接的な各種情報が溢れる時代においても、文字を読みそれを自らイメージする力や、ねらいをもって文字を通して情報を得たりそこから考えたりする力を育てる」

また、アンケートを受けて、以下のような点からも具体策を検討します。

- 小さい子どもやその保護者が本に親しみやすい環境を作る。
（子どもがさわいでしまうのが心配 子どもがいる人の本の上限を増やしてほしい リラックスできる空間があれば 等の記述もあり）
→図書館環境の充実、読み聞かせ会の周知や参加しやすい体制作り、親子読書のきっかけとなる誕生日の本の工夫 等
- 全ての小学生が本に触れ、読書に取り組むための活動の充実
→参加しやすいコンテストの工夫、興味をそそる本の紹介、読み聞かせの充実 等
- 未来を考える中学生が、本から学ぼうとする活動の充実
→キャリア教育との連携を図る、子どもが人生を考えるきっかけとなる誕生日の本 等

子どもの読書活動に関するアンケート(全小学校)

1. 本を読むのは好きですか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
好き	149	5	154	58.8%
どちらかという好き	82	1	83	31.7%
どちらかという嫌い	16	0	16	6.1%
嫌い	9	0	9	3.4%
合計	256	6	262	

2. 授業以外で学校の図書室や図書コーナーを利用することはありますか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
よく利用する	141	5	146	55.7%
めったに利用しない	95	1	96	36.6%
まったく利用しない	20	0	20	7.6%
合計	256	6	262	

3. 一か月にだいたい何冊くらいの本を読みますか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
7冊以上	75	1	76	28.8%
4～6冊	67	6	73	27.7%
1～3冊	90	0	90	34.1%
0冊	25	0	25	9.5%
合計	257	7	264	

4. 前の質問で0冊と答えた人にお聞きします。読まなかった理由は何ですか。(あてはまることをすべて選んでください)

項目	当麻	宇園別	合計	合計比	全体比
少年団、習い事などで時間がない	13	0	13	22.4%	5%
勉強で時間がない	4	1	5	8.6%	2%
友達と遊んでいる	7	1	8	13.8%	3%
本を読んでも楽しくない	10	0	10	17.2%	4%
本に興味がない	9	0	9	15.5%	3%
テレビやゲームの方がいい	13	0	13	22.4%	5%
合計	56	2	58		

*「合計比」とは、その回答が占める合計に対する割合

*「全体比」とは、その回答が全体の人数に占める割合

複数回答がある場合や一部の児童のみが回答した時に全体に占める割合

5. 読む本は主にどのような本ですか。(複数回答可)

項目	当麻	宇園別	合計	全体比
絵本	88	0	88	33%
物語、小説、ファンタジー	143	7	150	57%
実用書(趣味、スポーツ、工作など)	81	0	81	31%
ドキュメント(歴史、伝記、本当にあった話など)	74	0	74	28%
コミック	133	2	135	51%
雑誌	27	0	27	10%
科学もの(科学、動物、植物、恐竜、宇宙、人体など)	94	0	94	36%
その他	18	0	18	7%
合計	658	9	667	

その他:「逃走中」の本、バトル図鑑、図鑑、虫の本、怖い話、動物、クイズ、怖い話のマンガ、
 攻略本、お絵描きの本、マンガ(鬼滅の刃)、世界の言葉、間違い探し、料理、
 勉強(国、算、社、理)、魚図鑑、特に読まない、アニメ

6. 小さい時(小学校入学前)、絵本などの本を誰かに読んでもらっていましたか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
よく読んでもらった	138	4	142	54.0%
ときどき読んでもらった	105	2	107	40.7%
読んでもらったことがない	13	1	14	5.3%
合計	256	7	263	

その他:わからない

7. 「よく読んでもらった・時々読んでもらった」に○をつけた人にお聞きします。

◎誰に読んでもらいましたか。

(あてはまるものをすべて選んでください)

項目	当麻	宇園別	合計	全体比
家族[母・父・兄弟・祖父・祖母]	196	5	201	76%
幼稚園や保育園の先生	172	4	176	67%
読み聞かせの人たち	73	1	74	28%
その他	7	0	7	3%
合計	448	10	458	

その他:自分、わからない、いとこ

8. 「読み聞かせ」の時間は好きですか。嫌いですか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
好き	130	5	135	51.7%
どちらかという好き	86	1	87	33.3%
どちらかという嫌い	33	0	33	12.6%
嫌い	6	0	6	2.3%
合計	255	6	261	

9. どこで本を読むことが多いですか。

項目	当麻	宇園別	合計
学校で	109	5	114
家庭で	119	2	121
図書館で	25	0	25
決まっていない	51	0	51
合計	304	7	311

全体比
46%
44%
10%
20%

10. 町の図書館へ行くことはありますか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
よく行く	52	3	55	21.3%
ときどき行く	84	0	84	32.6%
あまり行かない	82	1	83	32.2%
行かない	33	3	36	14.0%
合計	251	7	258	

12. 「たんじょうびの本」をもらうのはうれしいですか。

項目	当麻	宇園別	合計	合計比
うれしい	171	5	176	67.4%
どちらかといえばうれしい	71	1	72	27.6%
べつにうれしくもない	12	0	12	4.6%
いやなきもちになる	1	0	1	0.4%
合計	255	6	261	

その他:うれしい／あまり読まない

子どもの読書活動に関するアンケート(中学生)

1. 本を読むのは好きですか。

項 目	1年	2年	3年	合計	合計比
好き	22	12	16	50	38.5%
どちらかという好き	15	20	23	58	44.6%
どちらかという嫌い	6	9	3	18	13.8%
嫌い	1	2	1	4	3.1%
合 計	44	43	43	130	

2. 授業以外で学校の図書室や図書コーナーを利用しますか。

項 目	1年	2年	3年	合計	合計比
よく利用する	7	5	10	22	16.8%
たまに利用する	29	24	27	80	61.1%
利用していない	9	14	6	29	22.1%
合 計	45	43	43	131	

3. 一か月に平均して何冊くらいの本を読みますか。

項 目	1年	2年	3年	合計	合計比
7冊以上	8	6	8	22	16.9%
4～6冊	9	6	8	23	17.7%
1～3冊	22	23	25	70	53.8%
0冊	6	7	2	15	11.5%
合 計	45	42	43	130	

4. 0冊と答えた人にお聞きします。読まなかった理由は何ですか。

項 目	1年	2年	3年	合計	合計比	全体比
部活、習い事などで時間がない	3	2	0	5	12.5%	3.8%
勉強で時間がない	0	2	0	2	5.0%	1.5%
友達と遊んでいる	1	4	0	5	12.5%	3.8%
本を読んでも楽しくない	3	6	0	9	22.5%	6.9%
本に興味がない	4	6	1	11	27.5%	8.5%
テレビやゲームの方が楽しい	1	6	1	8	20.0%	6.2%
合 計	12	26	2	40		

*「合計比」とは、その回答が占める合計に対する割合

*「全体比」とは、その回答が全体の人数に占める割合

複数回答がある場合や一部の児童のみが回答した時に全体に占める割合

5. 読む本は主にどのような本ですか。(複数回答可)

項目	1年	2年	3年	合計
絵本	0	3	1	4
物語、小説、ファンタジー	29	32	33	94
コミック	25	13	31	69
雑誌	5	5	7	17
ドキュメント(歴史、伝記、本当にあった話など)	8	5	8	21
科学もの(科学、動物、植物、恐竜、宇宙、人体など)	10	6	6	22
実用書(趣味、スポーツ、工作など)	3	4	6	13
その他	7	3	3	13
合計	87	71	95	253

全体比	3.1%
	71.8%
	52.7%
	13.0%
	16.0%
	16.8%
	9.9%
	9.9%

その他:

6. 小学校入学前、絵本などの本を誰かに読んでもらっていましたか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
よく読んでもらった	23	19	21	63	48.1%
時々読んでもらった	18	21	21	60	45.8%
読んでもらったことがない	4	4	0	8	6.1%
合計	45	44	42	131	

7. 中学校でも読み聞かせをしてほしいと思いますか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
ぜひ色々な話でやってほしい	11	6	3	20	15.6%
短いお話しでやってほしい	14	5	5	24	18.8%
中学生には必要ない	19	32	33	84	65.6%
合計	44	43	41	128	

8. どこで本を読むことが多いですか

項目	1年	2年	3年	合計
学校で	22	25	25	72
家庭で	22	13	14	49
図書館で	5	0	1	6
決まっていない	7	6	8	21
合計	56	44	48	148

全体比	55.0%
	37.4%
	4.6%
	16.0%

10. 町の図書館をどのくらい利用していますか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
よく利用する	3	2	0	5	4.1%
ときどき利用する	13	5	10	28	22.8%
あまり利用しない	24	34	25	83	67.5%
利用したことがない	2	1	4	7	5.7%
合計	42	42	39	123	

12. 町立図書館にホームページがあるのを知っていますか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
知っている	7	8	8	23	19.0%
知らない	33	34	31	98	81.0%
合計	40	42	39	121	

13. ホームページを活用していますか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
活用している	2	1	0	3	2.5%
ときどき活用している	2	1	3	6	5.0%
活用していない	37	39	36	112	92.6%
合計	41	41	39	121	

14. 「誕生日の本」をもらうのはうれしいですか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
とっても嬉しい	22	10	23	55	45.5%
どちらかと言えばうれしい	16	27	15	58	47.9%
べつに嬉しくない	2	3	1	6	5.0%
いやな気持ちになる	2	0	0	2	1.7%
合計	42	40	39	121	

15. 「誕生議の本」の選び方について、どれがいいと思いますか。

項目	1年	2年	3年	合計	合計比
カタログから選ぶ	25	31	28	84	69.4%
家族と一緒に読める本	2	0	1	3	2.5%
誰かに決めてもらう	3	1	1	5	4.1%
小学生や高校生の本からも選べる	16	15	17	48	39.7%
合計	46	47	47	140	

子どもの読書活動に関するアンケート(幼稚園・保育所)

1 家庭で読み聞かせをしていますか

項目	未満児	年少	年中	年長	合計
1～3日に一回以上している	10	8	9	7	34
1週間に一回以上している	9	9	12	6	36
していない	0	5	3	3	11
その他	3	2	4	2	11
合計	22	24	28	18	92

その他:年少/本人が希望した時

年中/子どもが読みたかった時 月2～3回

年長/子どもが読みたかった時 月何回か

2 誰が読み聞かせをしていますか(複数回答可)

項目	未満児	年少	年中	年長	合計
母	17	14	25	20	76
父	16	7	16	8	47
兄姉	4	2	6	2	14
祖父母	5	2	2	2	11
その他	0	0	0	0	0
合計	42	25	49	32	148

3 読み聞かせの本を選ぶときに参考とするものは(複数回答可)

項目	未満児	年少	年中	年長	合計
書店	9	12	19	13	53
図書館	6	4	11	7	28
育児書など	2	1	1	1	5
新聞や雑誌	2	4	1	3	10
知人友人の勧め	4	4	2	1	11
参考にしているものなし	3	2	4	4	13
合計	26	27	38	29	120

4 町立図書館へはどのくらいの頻度でお子様を連れていきますか。

項目	未満児	年少	年中	年長	合計
毎週	0	0	0	0	0
月に数回	1	5	4	6	16
月に1回程度	2	0	1	1	4
3ヶ月に1回程度	2	1	4	1	8
半年に1回程度	1	4	3	2	10
ほとんど行くことがない	16	15	14	13	58
合計	22	25	26	23	96

5 町立図書館のホームページを知っていますか。

項 目	未満児	年少	年中	年長	合計
知っていて活用している	0	1	0	1	2
知っているがほとんど活用していない	2	1	8	0	11
知っているがまったく活用していない	3	2	1	1	7
ホームページを知らない	16	19	19	20	74
合 計	21	23	28	22	94

6 月2回、土曜日に行われている「読み聞かせの会」について

項 目	未満児	年少	年中	年長	合計
参加したことがある	2	1	2	1	6
参加したことがない	16	13	20	12	61
おはなし会を知らない	2	7	6	8	23
合 計	20	21	28	21	90

7 参加したことがない理由

項 目	未満児	年少	年中	年長	合計
知らなかった	4	8	8	8	28
知っているが時間がない	14	8	17	9	48
興味がない	1	3	1	3	8
合 計	19	19	26	20	84

8 誕生日の絵本が贈呈されることについて

項 目	未満児	年少	年中	年長	合計
子どもに本にふれさせる機会が増えた	20	17	24	17	78
読み聞かせを始めるきっかけとなった	2	2	1	2	7
絵本や読み聞かせへの関心が増した	6	2	0	2	10
特に変わらない	1	1	3	3	8
合 計	29	22	28	24	103

9 この事業がこれからも続くと良いと思いますか

項 目	未満児	年少	年中	年長	合計
そう思う	18	15	18	17	68
どちらかというと思う	4	4	8	4	20
どちらかというと思わない	0	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	1	1
合 計	22	19	26	22	89

『当麻町第3次子どもの読書活動推進計画』策定委員

	氏 名	役 職	備 考
1	中野 倫子	教諭・当麻小学校図書係	
2	南 信重	教諭・宇園別小学校図書係	策定副委員長
3	辻本 紘子	教諭・当麻中学校図書係	
4	畠田 佳奈	当麻小学校図書館司書	
5	居内 佳代子	当麻中学校図書館司書	
6	廣田 明希子	当麻幼稚園図書担当者	
7	大久保 英美	当麻保育園図書担当者	
8	樋田 久美子	当麻町おはなしネットワーク (くんくんおはなし会)	
9	西川 典子	当麻町おはなしネットワーク (おはなしポッケの会)	策定委員長
10	今井 香織	役場子育て支援課保健師	
11	佐伯 智子	子育て総合センター保育士	

【事 務 局】

山 田 幸 宏	教育課長	
鈴 木 敏 史	教育課課長補佐 (兼：当麻町立図書館長)	
古 田 陽 介	当麻町立図書館主査	
浜 頭 一 行	社会教育係長	
近 藤 桃	社会教育係主任	
布 施 司	生涯学習アドバイザー	